

F-44 デルファイ方式による未来生活の予測 —その3— 食生活に関する予測
大妻女大家政 前川常子 八倉巻知子

1. 目的 本調査研究は、生活指標の基礎資料をうることを目的として、生活全般に対する未来像の予測をデルファイ方式により行つた。調査の実施に際しては、斯界の指導的立場の方々の忌憚ない意見と収集して、その結果を分析検討するものである。なお、本研究調査は今回のみでなく、オス回と継続実施し、より正確な結果を得よう計画している。— その3— の分担は食物・栄養・調理・食事など食生活全般、および健康・医療等についての予測を行つたので報告する。

2. 方法 本調査対象は、日本家政学会、および多数の関連学会会員の中から層化多段法によりサンプリングした。調査期日は、昭和49年6月21日～7月20日迄とした。調査法は郵送による。配布数は408票、回収は87%割であつた。調査内容はデルファイ方式によつた。設問は88項目、うち食生活に関する項目は26であつた。

未来生活の予測に関する調査は質問項目を、大別して A 生活に関する研究開発についての予測、B 家庭単位における生活予測、C 社会単位における生活予測から構成されてゐる、そのなかに、被服・食物・住居・児童・教育・家族・娯楽経済等の項目が含まれるよう作成した。

3. 結果 回収した調査票を、専門分野別に分類し、食生活に関係する方々の回答を集計した。回収数は256票中51票であつた。3分は年令層別に分類して検討した。それらを食生活に関する項目26についての結果と他分野の方々の回答結果と比較した。なお詳細は紙面の都合で省略するが、学会時にプリントにより発表する。